
THE LIVING DEAD

ハルジオン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

THE LIVING DEAD

【Nコード】

N9595Q

【作者名】

ハルジオン

【あらすじ】

貴方にもこの『音』が、聴こえますか？

ああ。

またドコかで涙の落ちる『音』が、私を呼んでいる。

この小説は大好きな『BUMP OF CHICKEN』のアルバム曲『THE LIVING DEAD』を元に、私なりに解釈をして綴った小説です。

少しでも、心に残る作品に仕上がったら幸いです。

出会い（前書き）

あらすじにも書いた通り、私なりの解釈で描かれています。
原作のイメージを大切にされている方、又は崩れる事を嫌う方は読
まれない事を勧めさせて頂きます。

出会い

『出会い』

ねえ、その君。

君だよ。 キミ。

あつーちよちよ、ムシしないでよー!!

全く…。

え？何か用かって？

そんなに睨まないでくれ。

私はただ、『音』につられて来ただけなんだからさ。

はい、じゃあまずこれ持つて。

ん？これ？

あはは、バカになんかしてないよ。

これが、全ての始まり。

タダの本じゃないよ？

私にとって、大切に大事な本なんだ。

ねえ。

ちょっと、私の昔話に付き合ってくれないかな？

まあ聞いてよ。

今の君に、聞いて欲しいんだ。

うん。君にだよ。

ちょっと昔のお話なんだけどー…

1・Opening

『1・Opening』

細く、薄暗い路地裏。電灯の光も鈍くうねりをあげる道なりを、ジャリリと音を立てて踏み締める。

辺りは真っ暗。

肌を突き刺す様な、冷たい雨が降り注ぐ。頬を滑る冷たいソレ等は、零れ続ける涙を洗い流してはくれなかった。雨は何処までも冷たく突き放し、叩き付ける雨音と、砂利が擦れる音しか耳には届かない。

独りに、なりたい。

私はただ、それだけを願ってさ迷い歩いていた。

「もし、ソコのお方。」

ビクリと、肩が揺れる。存外近くから聞こえた他人の声。誰も居ない、と思っていたのは間違いだったようだ。

背後に人の気配がするが、振り返るつもりは無かった。無言でいると、突然頭上に陰ができ、雨が遮断される。驚いて振り向いて見れば、全身黒づくめのスーツを着こなし、黒のハットに黒のスーツケースを携えた男が立っていた。

男の服は、雨でシミが生まれ初めている。盗み見るよう上をちらりと見上げれば、黒い傘が私を包み込んでいた。

何が、したいのだろうか。眉間に皺を寄せ、怪訝そうに男を見や

れば、にこりと、人好きするような笑顔を見せた。

「お訪ねしたいのですが。この辺りでつい先程、『涙』が落ちる音がしたのですが…。」

どなたの涙かご存知、ありませんか？」

ぴちゃん。雨音が一粒、大きく跳ねた。男の言葉に目を見張る。何を、言い始めるんだ。おや、と漏らされた言葉に居たたまれなくなり、顔を背ける。

その男は何か考える素振りを見せたかと思うと、スーツケースを地面に置き、中を漁り始める。水溜まりにぱちゃんと音を立てて濡れたソレを気にせず、お目当てらしき物を私に押し付けてきた。

「…？」

「プレゼント、です。」

疑問を口にする前に、呟かれた言葉。手の内にあるのは、どこにでも有るような一冊の本。こんなモノ、どうすればいいんだ。眉間に皺を寄せ、睨み付けるよう、本を眺める。すると、小さな笑い声が頭上からくすりと耳に霞める。

「ちゃんと読んでおくこと。良いですね？」

押し付けがましいその言葉に苛立ちが募る。文句の一言でも言うてやろうと視線を向けようとした瞬間、軽く肩に掛かる感触。

視界の端に映る銀の取っ手に、黒く塗り潰される世界。

「それでは、また後で。」

傘を取り払い、男が立っていた場所を見やる。が、誰も居ない。いつの間に立ち去ったのか。目を凝らし辺りを見渡しても、男は何

処にも居なかった。

余りにも突然の出来事に、狐に化かされたか、幻だったのか。現状を把握しきれなかった頭が逃避を行うが、両手にある存在が現実だと訴え掛ける。

（…変な人…だ。）

男が居た方向を見て、心の中で呟く。雨音は相変わらず激しく傘を鳴らす、体温を奪う事はない。それが嬉しく、哀しい。矛盾した感情を胸に秘めたまま、目にしたのは一冊の本。

正直何が書いてあるのか、興味はあった。辺りに人の気配は無い。あの男の言う通りに行動するのは癪だが、読んだことがバレなければ良いだけの話。好奇心に突き動かされるよう、一枚ページを捲ってみる。

「…っ!？」

辺りを埋め尽くさんばかりの眩い光が、本を中心に発光する。目が、開けられない。両の目をぎゅっと、強く瞑る。光が治まる気配は無く、まるで私を飲み込んでしまうようだと思った。

しかし、永遠などあるはずも無く、徐々に消え行く光を感じて、再び目蓋を開けた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9595q/>

THE LIVING DEAD

2011年10月3日21時50分発行